本来の人間性を取りもどそう

創世記1;27

2023/6/18

今、世界中で、非常の多くの人たちがクリスチャンになっています。特に、私たちのアッセンブリー教会の働きは素晴らしく、いまや、アッセンブリー教会の日曜礼拝会に出席している人の数は、7千万人を遥かに超えています。また、私たちの教会の影響を受けた様々な働きを加えると、数億に昇る人たちがクリスチャンになっています。

とは言えこの統計は、デモの主催者側の発表による参加者数のようなところがあって、実数は、かなり低いと思われますが、それでも大したものです。私たちの教会ほどの大きなうねりをもたらした宗教運動は、人類の歴史上類の無いものです。

しかしこの運動は、伝統的キリスト教国を除いての話です。伝統的な西欧キリスト教諸国でのクリスチャン人口は減少し続けています。

Ⅰ．　どうして西欧キリスト教諸国ではクリスチャン人口が減少しているのか　　理由は比較的簡単です。人々は伝統的な権威主義的教会に、魅力を感じなくなったのです。たとえある教会は、伝統的ではなく、権威主義でもないとしても、全体の流れに飲み込まれてしまっています。その原因は、人々が人権、自由、などに目覚め、自然科学的な考えを、浅薄に聖書に適用して、聖書の権威を認められなくなってしまったためです。たとえば、自然科学で学んだことを、天地創造の物語に応用してみて、これは非科学的で信用に足りないというようなものです。伝統的教会が、自然科学を敵視して、真面目な学びも説明もできなかった結果が、このようなことになったのです。

教会の権威も聖書の権威も、認められなくなった西欧の人々は、人間の能力、と自由、人権などを、聖書の代わりの高く掲げたのです。それは、権威的教会に支配されていた世界よりも、よほど良い世界を作り出すことが出来ました。人々は、教会の無い社会、神の存在を前提としない社会を選んだのです。そしてその勢いはますます激しくなって、留まるところを知りません。

Ⅱ．　現代西欧社会には限界があります　　このような選択をした、かつての伝統的キリスト教社会は、一見、素晴らしく見えるのですが、おのずと限界があります。確かに、人間の本来の能力をきちっと認め、人権を擁護し、自由を大切にすることは、現代社会の大原則であり、知らなかったとはいえ、聖書の教えに従うことです。現代の西欧社会は、あたかも、教会と聖書の権威に反発するような形で出現したのですが、実は、伝統的権威主義的教会が、聖書の原則を捻じ曲げ、自分勝手な解釈をもって、好き勝手をやって

いただけであり、西欧の人々は、キリスト教を離れ、聖書の原則に戻ったにすぎません。人間は本来神の姿に似せて造られたもので、神に似たあらゆる良い性質を持っているのです。自分で考え、自分で選択し、責任をもって自分の人生を生きるのです。

とは言え、現代の西欧キリスト教国で教会を捨てた人々は、盥（たらい）の水を、赤ちゃんもろともに捨ててしまったのです。赤ちゃんとは聖書です。そのために、伝統的キリスト教世界に生きていた人々は、いま教会を後ろにし、自由を謳歌しながら、大きな迷いの中に生きています。平和を叫びながら、平和を観ることが出来ないままです。平等を謳い、差別に反対を唱えていながら、逆方向に進んでいるかのように思えます。それは、聖書の基本的教えである、神の姿に似せて造られた人間の性質から、神を礼拝しようとする厳かな部分を失ってしまい、際限のない、自分の欲望の中に放り出されてしまったからです。

Ⅲ．　私たちは、罪に拘束され、悪魔の支配に生きています。　私たちは今、悪魔の支配の中に生きていること、罪の拘束の中にあえいでいることを、理解しなければなりません。それが聖書の教えです。その聖書の教えを、盥の水と共にすててしまったのが、現代の西欧諸国なのです。

その結果、自由と言う美しい名の欲望の追及、人権と言うかがやくような名の欲望の追及は、著しい貧富の差を生み出し、何億もの人々を貧困のどん底に陥れました。人間は、美しい人間の本質を追求しながら、その実、自由思想に擁護された、自己中心という罪に拘束され、悪魔に支配されているのです。ですから、非人道的な戦争を繰り返し、殺戮を日常としながら、民主主義を主張することになるのです。絶対者である神を認めて生きることが、人間に課せられた極めて重大な資質であるにも拘わらず、その絶対者を見失ってしまったために、どのように生きたらよいか分からなくなっているのです。

Ⅳ．　現代西欧諸国に必要なこと　伝統的教会、権威主義で専制的な教会を捨てたのは良いことです。しかし、聖書の教えを理解せず、丸ごと捨ててしまったのは大きな誤りです。今西欧諸国で、人権だ自由だ、平等だ平和だと叫んでいる人々に必要なのは、聖書を学び直すことです。盥の水と共に捨ててしまった赤ちゃんを、取り戻すことです。

確かに権威主義で独裁的で、非人道的だった西欧の教会は、盥の中の赤ちゃんを大切にせず、その美しさも、大切さも理解せず、醜いものであるかのように、取り扱ってしまいました。その教会にあったのは、正しい聖書の解釈でも、正しい聖書の用い方でもなく、自分勝手な、都合のいい聖書の用い方でした。その結果、教会だけでなく、聖書までも捨てられてしまったのです。

いま、神を見失い、右往左往している西欧社会に必要なのは、盥の水と共に捨てられてしまった、聖書と言う赤ちゃんを取り戻すことです。そして、神に似せて造られた、本来の人間の生き方を、取り戻すことで

す。

聖書は、人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るひとつひとつの言葉によると語っています。（マタイ4：4） 聖書を失うことは、何にもまして大きな損失なのです。私たちも、神の言葉である聖書をしっかりと読んで、その導きに従った生き方をしましょう。